

みんなが笑顔で過ごせる場所を創る



- 1) 設立 2009年(平成21年)
- 2) 所在地 山口市徳地堀1701番地
- 3) 従業員数 22人(うち女性16人)
- 4) 事業内容 デイサービス



居宅介護支援事業所
カフェ事業(イベント出
店、テイクアウト等)



代表取締役 江藤マミ氏(2024年2月6日インタビュー)

地元徳地で、全く未経験ながら介護事業を創業 そのきっかけと思い

小学生の頃から、徳地に住んでいます。徳地は、郵便局、銀行、役所など全部近くに揃うコンパクトシティです。インターチェンジもあり、渋滞もなく山口や防府、周南にも30分で行ける便利な町です。介護は、始めるまで関わったことのない分野でした。

子どもが生まれた後も働いていたとき、突然の子供の発熱等でどうしても仕事を休むことが多くなってしまい、育児をしながら働く大変さは身を持ってずっと感じていました。

そんな日々を過ごす中、テレビで認知症の利用者さんが赤ちゃんを見て、笑顔になったり会話することができるようになったりしたという番組を見た時、「子どもがいる自分でも、介護の仕事なら挑戦できるかもしれない!」と、思いました。

それから色々調べて、デイサービスを始めることにしました。一日を通して高齢者の日常生活の支援をする中で、小さな子供が時折遊びにきて場を和ませることができるからです。今では、保育園、小学校、中学校、高校など色んなところから、子ども達がおはなに職場体験やボランティアで来てくれ、地域に根ざして世代を超えた交流をさせていただいています。

今でこそ、街にたくさん老人ホームがありますが、私が始めた頃は、介護はあまりオープンにしないような雰囲気はまだ残っていました。そんな中で私は「街でやる事こそ将来性があるはず」と奮起し、徳地のメインストリートである堀地区にデイサービスを立ち上げ、今に至ります。堀にあって、とても良いのが、従業員も休憩時間に銀行に行ったり、買い物したりと便利なので勤めやすいです。また、利用者のご家族も会いに来やすい。それから、奥の方に住んでいる利用者さんたちは、週に一度は堀の街に出られるという、リフレッシュにも繋がっています。

今では、堀に「おはな」があるのが定着し、皆さん好意的に来てくれています。おはなが、地域の皆さんに愛されていると感じ、私自身、とても嬉しく思っています。

事業スタート、苦労の連続 ~経験を活かして、失敗を乗り越える~

今年で事業を始めてから15年ですが、スタートはやはり苦労の連続でした。スタッフとの距離感がつかめず、公私混同してしまい悩んだ時期もあります。また、スタッフの負担軽減のためと、自ら現場に入る頻度が多くなってしまい、最後には自分の事務作業が回らなくなって悪循環に陥ったこともありました。

また、社外においては、女性だからという理由で、話がうまく進まず辛い思いをしたこともありました。でも、そんな経験ができたからこそ、今、女性だからできることもあるのではないかと、思えるようになりました。子育てをする大変さを理解してあげられることもその一つだと思います。

働いてくれるスタッフに感謝、スタッフ同士も「ありがとう」を忘れずに

《おはなユニフォーム》



「おはな」はハワイの言葉で「家族」という意味があり、家族のようにリラックスできる場所ということで付けました。

現場はスタッフがいて初めて成り立つ仕事なので、私自身が感謝の気持ちを忘れないようにしています。せっかく勤めたからには、辞めずに長く続けてほしいと思っています。

なので、必ず年に2回はスタッフと面談し、最近どう？とざっくばらんに話をしながらも、スタッフが抱える悩みに早く気づけるよう努力しています。それからスタッフ同士でも、「感謝の言葉を忘れないように」と伝えています。

例えば急遽替わりに出勤してくれた人には、スタッフ同士はもちろん、私からも「今日出勤してくれてありがとう」と伝えるようにしています。すると「お互い様ですから」って答えてくれたりしてうれしく感じますね。

職場の中の間人間関係は本当に大事ですので、面接の時に前の職場の間人間関係で苦労したスタッフがいたら、そのスタッフには他の人以上に、心を配る努力をしています。

そんな私を見て、あるスタッフから「オーナーの気遣いはまるで銀座のママみたい」と言われ、面白くて思わず笑ってしまいました。

スタッフのやる気アップで育成 ～資格取得を応援～

スタッフには資格の取得を進めています。資格を取ることで、手当が付くというのももちろんですが、資格を持って対応することで、また1つ、プロとしても、自分自身の行動に自信が持てます。

それから、資格はその人の財産です。もし、おはなで働き続けることができなくなっても、きっとまた就職した時に役に立ちます。資格取得の意味を伝えて、スタッフのスキルアップを応援しています。

もちろん、スタッフに研修を受けてもらうためには、替わりのスタッフも揃っていないといけないので、常日頃からおはなで働いてくれているスタッフを大切にしよう心がけています。

デイサービスの利用者と一緒に、スタッフも楽しむことで、みんな笑顔に

おはなについては、ホームページやブログ、公式LINEを通じて、日々、積極的に発信するようにしています。デイサービスでの季節ごとの特別な行事はもちろんですが、何の変哲もない日々の日常を発信するというのは苦労もあります。でも、継続的に発信することで、利用者さんたちも「おはなに行けば毎日楽しい」と、笑顔で来てくださいます。

また、ホームページやブログがおはなに応募するきっかけになったスタッフもいます。

そして、四季折々の行事は、利用者さんが楽しむのはもちろんですが、スタッフも施設から外出し一緒に出掛けることで、スタッフ自身のリフレッシュにも繋がっています。スタッフからは、忙しくてまだ桜も見えていなかった、足湯に浸かって自分の足も軽くなってうれしい、という声を聞きます。

利用者さんが笑顔で過ごす手伝いをしながら、スタッフ自身も、楽しむことで、みんなが笑顔で同じ時間を過ごすことができます。

《桜の下で茶道教室》



《おはなホームページ》



経営者としてのやりがいと、おはな のこれからに向けて

◆ 「人を助けたい」 その思いを支えることが喜び

事業が少しずつうまく回るようになり、正社員が増えて、ふと、社員の生活、それを会社が支えていると気づいた時に、嬉しく、頑張ろうと思うことができました。スタッフの生活を支える責任が、今では私自身の喜びや、やりがいに繋がっています。

本当に人の役に立ちたい、困っている人を助けたいという思いを持った人がこの介護という職種を選んでいる、私はそれをすごく感じるので、自分自身がそんな人を支えていける存在になれば良いなと思っています。

◆ 地域とのつながりを大切に歩む

一般のお客様向けにカフェ事業を5年間営んだおかげで、ありがたいことに、地域の方から声をかけてもらえるようになりました。例えば「今度こういうイベントがあるけど、カフェで出店してもらえないか？」と、頼まれることもあります。一方で、介護となると、実際よく分からない、自分には関係ないと、感じている方もいらっしゃる。私は、介護のことをもっと知って欲しいので、カフェでできたつながりを活かして、地域の行事にも積極的に参加しています。

コロナ禍を経てカフェも、来てもらうよりは人がいるところに出向いていくという新たなやり方も増えています。時代に合わせて、キッチンカー導入など新しい方法も考えていきたいですね。

◆ 女性経営者として感じること ～女性も男性も、共に認め合う～

「おはな＝家族」家族には、お父さんやお母さん、それぞれに大切な役割や存在価値があります。

それを会社に照らし合わせて考えた時、男性だからこそ、女性だからこそ役に立つ、助け合える分野がある。お互いがいるからこそ意義があるので、その価値を認め合い、男女の別なく感謝をする気持ちを忘れない。そういう気持ちをみんなが持つことで、これからの会社の成長につなげていけたらいいなと思っています。

おはなで活躍する女性スタッフのコメント

～ 入社して良かったこと ～

現場リーダーのSさん

祖母も利用者でお世話になっている。天候など不安なときには家族とネコも一緒に会社に避難させてもらえ、安心して一夜を過ごすことができました。

入社6年目のKさん

休みを取りやすく、周りのスタッフみんなが快く交代してくれてありがたい。スタッフ同士人間関係がとても良い！オーナーもいつも声をかけてくれたり、気遣ってくれて感謝している。

看護師のN&H&Yさん

利用者さんの笑顔を大事にし、より良いサービスに向けてみんなアイデアを出して協力しあえる体制で仕事がとても楽しくできている。

休憩時間もきちんと取れ、それぞれが好きなように過ごせる。10月の「家族の日」には、オーナーからスタッフに、梨と大きなピオーネプレゼントも。

《リフト付き福祉車両の導入》



《講師を呼んでのフラワーアレンジメント研修》